

**具体的な施策・重要業績評価
指標（K P I）進捗状況評価票
（地方創生関連交付金対象事業）
【対象：平成 29 年度】**

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	ラグビーのまち府中推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	政策課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビーを新たな地域資源として捉え、様々なイベントの実施などによりラグビー人気の定着を図るとともに、PR活動の推進、市内の子どもたち向けラグビー教室の開催などにより、市内外において「ラグビーのまち府中」のイメージを確立させます。 ・「ラグビーのまち府中推進委員会」を立ち上げ、イベントの実施などを官民協働で実施することで、まちの賑わいづくりにおける共通認識とビジョンの共有を図り、将来の中心市街地活性化および商業の活性化に繋がります。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標 (H28 年度)		目標 (H31 年度)		
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
ラグビーに関連する特産物や商品、飲食メニューの開発 (市内ラグビー関連スポット)	件	5		20		
		0	3	3		
		平成 27 年度の実績	B	C		
市内でのラグビー関連イベントの参加者	人	5,000		10,000		
		1,500	7,500	8,750		
		平成 27 年度の実績	A	A		
大学やトップチームと連携するラグビー関連事業数	事業	2		9		
		2	5	8		
		平成 27 年度の実績	A	A		

休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	C	A		
市内にラグビーチームが存在することを認知している市民の数	人	257,650				
		128,052	-	171,853		
		平成27年度の実績	-	A		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>平成29年度は、前年度に発足した「ラグビーのまち府中推進委員会」の活動が2年目となり、前年度から発展させた各種取組を実施した。</p> <p>指標 に関連では、トップリーグ2チームや大学ラグビー部との協働事業を継続拡大し、参加者・事業数ともに増加となり、これに伴い指標 にあるチームの市民認知度も大幅に増加する結果となった。</p>
B	<p>一方で、指標 に関連するラグビー関連商品等の開発販売については伸び悩んでいる。市内企業と連携し、商工会議所・商店街連合会・食品衛生協会府中支部等へ、協力の打診を行ってはいるが、具体的な商品開発までには至っていない状況である。引き続き、関係者との調整等を行い、具体化に向けた検討を行ってまいりたい。</p>
【平成30年度における取組など】	
<p>ラグビーワールドカップ2019開催1年前となる平成30年度は、公認チームキャンプ地が決定していくため、このPRと一体となって「ラグビーのまち府中」PR事業を相乗的な展開を図っていく。</p> <p>のラグビー関連商品開発については、引き続き、商工会議所・商店街連合会のほか、観光協会・まちづくり府中・市経済観光課、市内事業者等と連携し、商品開発に限らず飲食店のメニュー開発など幅広い視点で検討を進めていく。</p> <p>に関連しては、平成29年度からの事業を継続して展開するとともに、ラグビーワールドカップ2019に関連したイベント（公認チームキャンプ地となった国・チームをPRするイベント）等を実施することにより、イベントへの参加者及び協働して実施する事業数の拡大を目指していく。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・ K P I については目標値に対して大幅な未達となっており、改善や工夫が必要である。事業者にとっては、売上につながらない商品の開発・製造・販売は難しく、一つの企業に負担がかかると継続しにくいいため、協力依頼だけにとどまらず、他の指標の数値の向上とともに、売上拠点、人員、サポート体制を含めた総合的な検討を行っていく必要があると思われる。</p> <p>例えば、東芝プレイブルーパスやサントリーサンゴリアスの選手に人気のメニューや試合前の勝負メシなどを紹介してもらい、レストランや居酒屋で店ごとにアレンジして提供していただくことで、特別な食材でない限り、安価に実績値を増やすことが可能ではないかと思われる。</p> <p>市民がラグビーに親しみをもつ機会をつくることで、府中市の魅力としてラグビーを生かすことができるため、さらなる取組を期待したい。</p>
B	<p>・ K P I 及び の増加から、取組が順調に進展しており、府中市民がラグビーを身近に感じる事が定着してきていることが伺える。K P I 及び の関連事業を継続的に拡大していくことによって、K P I も増加傾向で進捗していくと考えられる。</p> <p>・ K P I については、現状順調に推移しているが、本事業との関連性を明確にしてほしい。</p> <p>・ 今後もラグビーのまち府中としてのPRのほか、市民が身近なスポーツとしてラグビーを感じるような取組に努め、今後も取組が発展するよう期待したい。</p>

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	百人一首かるたコンテンツを活用した観光誘客推進事業	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策	市の魅力を高め、知名度を向上させる活動の推進	
主担当課	経済観光課	
事業概要	・国内外で普及しているかるたコンテンツやかるたを題材とした人気漫画「ちはやふる」を活用し、同作品ゆかりの地である滋賀県大津市、福井県あわら市、東京都府中市の3市と、関連企業、商業施設などが官民で連携することで、かるたコンテンツを発信し国内外からの観光客を誘致します。	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
京王線府中駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		85,279	88,100	90,224		
		平成26年度の実績	A	A		
京王線分倍河原駅における1日の乗降人員	人	現状値以上				
		89,249	92,493	94,116		
		平成26年度の実績	A	A		
府中市主要観光施設 (観光情報センター・観光物産館・郷土の森博物館・美術館・JRA競馬博物館・サントリー武蔵野ビール工場)観光入込客数	人	1,000,000				
		819,625	956,817	939,931		
		平成27年度の実績	A	B		

- 進捗 A : 目標達成に向け、順調に進捗している。
B : やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
C : 遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評価	<p>「ちはやふる」とタイアップしたスマートフォン向けのデジタルスタンプラリーアプリを開発、イベントを実施した。作品で登場する場所のほか、市内店舗などをラリーポイント等に設定、紹介することで参加者の市内周遊を促した。各ポイントではクイズが出題される形式で、問題を作品や百人一首、府中市に関するものだけでなく、ともに作品の舞台となっている大津市、あわら市に関連するものにして連携のPRを図った。また、片町文化センターにて、地域のかるた会が主催している初心者かるた大会は、引き続き開催に協力した。KPIの が減少した要因については、郷土の森博物館のプラネタリウムが、平成29年10月10日から平成30年5月1日まで改修工事をしていたことが要因の1つと考えられる。</p>
A	
【平成30年度における取組など】	
<p>「ちはやふる」の主人公達が府中市に住んでいることから、これまでに制作したロケ地マップという切り口ではなく、主人公達が府中の見どころを紹介するガイドマップを制作する。そして、掲載されている店舗や施設を巡り、そこに設置されたパネルに書かれた文字を集め、キーワードを完成させるラリーイベントを実施する。また、京王電鉄でも「ちはやふる」とタイアップした、京王線の駅を巡るスタンプラリーが実施される予定である。そこで、実施時期を合わせ、京王線のラリーに府中駅を加えてもらうことで、参加者が2つのラリーに同時に参加できる仕組みを作る。さらに、互いに広報や告知の協力をすることで、単独で実施するよりも大きな規模での誘客を行なう。例年実施している片町文化センターでの初心者かるた大会は、引き続き地域のかるた会に協力して開催する予定である。</p>	

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
 B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
 C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ K P I 及び については、順調に推移している点は評価できる。取組内容からも「ちはやふる」をきっかけに、府中市を訪れる人々に対して、地域の魅力を知ってもらえるような仕掛けがよく考えられている。また、かるた大会は定着していけば、府中市の新しい魅力となっていく可能性もあるのではないかと考える。例えば、府中市出身者の競技かるた選手や、京王線沿線出身の選手を紹介し、実際に活躍されている姿を見せることで市内外にアピールする方法もあると思われる。 ・ K P I については、郷土の森博物館のプラネタリウムが対象期間中改修工事をしていたことを要因としているが、今後の数値の推移を注視していく必要がある。 ・ 取組の趣旨は、「国内外からの観光客の誘致」であり、国外への P R ・ 発信に対する取組を実施し、今後も長く、多くの人々が府中市を訪れる事業として発展することを期待したい。 ・ K P I ~ のほか、イベントの参加者数やアプリの利用者数の把握に努めてもらいたい。
A	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
 B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
 C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。

具体的な施策・重要業績評価指標 (K P I) 進捗状況評価票
(地方創生関連交付金対象事業)
(対象:平成 29 年度)

事業名	市有財産の活用による中心市街地活性化に向けたまちづくり推進事業 平成29年度より「中心市街地活性化事業」と統合	
基本目標	2	定住促進に向けたにぎわいの創出とふるさと意識の醸成
基本的方向	1	府中の魅力を活かしたにぎわいの創出
具体的な施策		地域の連携によるにぎわいの創出
主担当課	財産活用課、経済観光課	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・官民連携による市有地活用のための民間事業者の募集および契約に当たり、助言や支援を受けるためのアドバイザリー業務を委託し進めます。 ・中心市街地における「にぎわいの創出」と「回遊性の向上」を図るため、商業者等が一体となった取組を中心的に推進するまちづくり府中へのスタートアップ支援や、活動目的であるエリアマネジメントの推進に向けた支援を行います。 ・J R A 東京競馬場の来場者を中心市街地へ呼び込むための取組として、購入した馬券を提携店舗で提示することでサービスが受けられる「東京競馬応援サポーターズ事業」を実施しています。この事業の取組回数の拡大および効果的な P R 方法の検討により認知度を向上させるとともに、提携店舗を増加させることにより来場者の多様なニーズに応えられるような環境を整備することで、J R A 東京競馬場来場者の中心市街地における飲食を促し、商業の活性化を図ります。 	

1 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	単位	現状	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
		目標				
		実績	実績	実績	実績	実績
		進捗	進捗	進捗	進捗	進捗
府中駅周辺公共施設の再編に伴う新たな活用を行う施設数	件	2				
		0	0	1		
		平成27年度の実績	A	A		
休日のけやき並木通りの歩行者通行量	人	現状値以上				
		19,378	15,586	25,500		
		平成27年度の実績	C	A		

大規模商業施設の年間販売額	億円	353				
		339	334	300		
		平成27年度の実績	B	B		
東京競馬場タイアップ参加店舗数	店舗	20		100		
		17	100	66		
		平成27年度の実績	A	B		
東京競馬場タイアップ来店数	組	200		16,000		
		104	17,190	8,465		
		平成27年度の実績	A	B		

- 進捗 A：目標達成に向け、順調に進捗している。
 B：やや遅れているが、概ね順調に進捗している。
 C：遅れが生じている。このままでは目標の達成が難しい。

2 進捗状況評価（担当課）

【平成29年度の取組内容と評価】	
担当課 評 価	<p>府中グリーンプラザ敷地活用方針を策定し、当該敷地を活用する事業者の決定に向け、募集要項等の作成・公表を行った。さらに、選定委員会を設置し、書類審査やプレゼンテーション審査などを踏まえ、当該敷地を活用する優先交渉権者を決定した。優先交渉権所と交渉を重ねた結果、選定事業者とすることとし、基本協定の締結を行った。また、ふれあい会館敷地については、サウンディング型市場調査の結果や庁内要望を踏まえ、引き続き活用方法の検討を行うこととした。</p> <p>市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、年末年始に中心市街地を訪れた方々へのおもてなしとして、竹を用いたライトアップ事業を実施した。竹あかりの製作に当たっては、市民の方々からもご協力をいただき、多くの方にとって思い入れの強い事業となった。にぎわいの創出に寄与した。また、長さやデザインの異なるオブジェを中心市街地内10か所に展示したことで、中心市街地内における回遊にも大きな効果があった。加えて、平成29年11月より、大國魂神社前にある未利用市有地の今後の活用方法を検証すべく、チャレンジショップを設置し、実証実験を行った。</p> <p>また、一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、一般社団法人まちづくり府中がコーディネーター役となり、府中駅南口に存在する大規模商業施設間の連絡会議が立ち上げられ、合同セール「キテキテ府中」や市内大学と連携した「FUCHU WORLD FESTIVAL」が催され、多くの来街者を迎え入れた。</p> <p>しかし、大規模商業施設の年間販売額に反映されるには至っておらず、上記取組の継続・発展が必要である。</p> <p>中心市街地の活性化に向け、一大集客施設である東京競馬場から本市中心市街地への回遊を創出すべく、タイアップ事業を一般社団法人まちづくり府中へ委託し、実施した。平成29年度は、スマートフォンを活用したスタンプラリー形式で実施したこともあり、スマートフォンをお持ちでない高齢者等が参加できず、課題が残った。</p>
B	

【平成30年度における取組など】

旧府中グリーンプラザについては、選定事業者との建物無償譲渡契約や事業用定期借地権設定契約など、各種契約が遅滞なく締結できるよう選定事業者との交渉を重ねていく。旧ふれあい会館については、市事業の代替地として活用することとし、事業協力者との土地売買契約締結に向け、交渉を重ねていく。

市から一般社団法人まちづくり府中への委託事業では、竹を用いたおもてなしライトアップ事業を平成29年度に引き続き実施する。また、平成29年度まで、むさし府中商工会議所が実施していた「府中マルシェ」について、民間の自由な発想により、さらに発展を図るべく、一般社団法人まちづくり府中への委託により実施する。

一般社団法人まちづくり府中の自主事業としては、大規模商業施設の連絡会議に京王SCを新たに加え、さらなるエリアの魅力発信につなげる。また、市内では初となる「まちゼミ」の開催により、大規模商業施設とは異なる個店や店主の魅力を知らせていただくコミュニケーション事業を実施し、にぎわい性の強化につなげる。加えて、平成29年11月より設置している大國魂神社前市有地のチャレンジショップについて、10月末を目途に検証結果をまとめ、以降の中期的な活用に向けた準備を進める予定。

平成29年度についてはスマートフォンを持っていることが参加要件となっていたことから、参加者数が思うように伸びなかった反省を踏まえ、平成30年度は、昨年と同様のデジタルスタンプラリーに加え、東京競馬場来場者の市内店舗への誘導策を強化するため、アナログ施策を併用することで、気軽に当事業に参加できる仕組みとし、参加者数の増加を図る。

- 評価 A：取組が順調に進展しており、進捗状況は良好である。
B：取組が進展しており、進捗状況は概ね良好である。
C：取組が遅れており、進捗状況は不十分である。

3 進捗状況評価（協議会）

【担当課評価などに対する意見】	
協議会 評価	<p>・ K P I 及び については、中心市街地の再開発が進むなど、取組が順調に進展しており、確実に活性化の成果は出ていると評価できる。</p> <p>しかし、 K P I が約 1 万人も増加する一方で、 K P I については、年々減少傾向にあり、現在の取組内容の継続・発展だけでは目標達成が厳しいように思われる。施設内の店舗の入れ替えや改装を行い、テコ入れしているのが見える部分もあるが、大規模店と連携し、 K P I が下がっている理由を分析するなど、今後の巻き返しに期待したい。</p> <p>・ K P I 及び については、ともに減少傾向であり、特に K P I については 17,190 組から 8,465 組に大きく減少している。担当課はデジタル・アナログ方式の併用により数値の回復を図るとしているが、 K P I はデジタルアプリに対応出来ない店舗があったから減少したのか、アナログ施策を併用することで店舗の増加が期待できるのか、さらには、デジタルスタンプラリーについてどのように取り組んでいくのかなど、 K P I が減少となった原因を分析したうえで、取組内容を検討してほしい。</p> <p>今後の成果によっては、本事業が的確なのか、また、東京競馬場から中心市街地への人の流れは、スタンプラリー以外の方策も検討することが必要ではないか。東京競馬場から中心市街地までの地理的な近さを東京競馬場の利用者に伝えるような一層の工夫を期待したい。</p>
B	

- 評価 A：目標の達成に向けて、着実に進んでいる。
- B：目標の達成に向けて、概ね進んでいる。
- C：目標の達成に向けて、改善や工夫が必要である。